

南山大学人類学博物館

年 報

2003 年度

南山大学人類学博物館

目 次

1. 巻頭言	2
2. 2003年度の活動を振り返って(総括)	3
3. 教育・普及活動(展示活動、講座等)	4
4. 調査・研究活動	4
5. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載	5
6. 資料修復	5
7. 当館紹介刊行物等一覧	6
8. 刊行物一覧 当該年度の刊行物、過去の刊行物一覧	6
9. 新着資料紹介 購入資料・受贈資料	9
10. 新着図書紹介 購入図書一覧・受贈図書件数	9
11. 団体、取材・資料調査のための来館者一覧	10
12. 開館日数・入館者数	10
13. 事務室日誌抄	12
14. 施設整備	17
15. 2003年度予算報告	17
16. 組織	17

1. 巻頭言

価値観の多様化した現代において、博物館の役割や機能もまた多様化している。多くの博物館ではハンズオンやアウトリーチが当たり前になりつつあるし、思いもよらない分野とのコラボレーションも起きている。こうしたことは、われわれが教えられた博物館学の教科書にはなかったことである。

大学博物館も例外ではない。かつてはほとんどガラクタといわれた資料を集めて保管していく場所というイメージが強かったが、ここ20年ほどの間にすすんだ大学の開放、大学における生涯学習の推進化施策の中で、大学博物館のもつ役割が再認識されるようになった。そして、その結果として大学博物館の拡充・充実が図られるケースが増えてきたことは、まさに大学博物館にとって追い風である。

しかし、わが南山大学人類学博物館では未だその追い風に十分乗り切れていない。普及活動に力を注いでこなかった分、認知度がいまひとつ低い点その原因であろう。一方で、当館は対外的には非常によく知られた博物館でもある。それは資料が質・量ともに秀れたものだからに他ならない。つまり、資料は良いが普及が不十分ということであり、加えて、資料の整理状況も決して良好な状況ではないことも、資料と普及をリンクさせる上での障害になっている。

だが、確実にいえることは、当館は潜在的に大きな可能性を秘めている博物館だ、ということだ。そして、その可能性を引き出すのは今という時期をはずすべきではない。

現在、当館では新たな事業展開を目指して、その内容を検討中である。多くはすでに他の博物館で実践されていることになるだろうが、いつかは大学博物館という特性を活かした活動を展開していきたい。

しかし、そうしたときに独りよがりな活動は、かえって博物館の足を掬うことにもなりかねない。そこで、今年度より博物館の1年間の活動をまとめた年報を刊行することにした。この年報によって、当館の年間事業はすべて明らかにされ、様々な評価にさらされるだろう。たとえそれが厳しい批判であっても、それを受け入れ、熟考し、改善していく以外にわれわれに残された道はない。

今年の年報は、まだまだボリュームとしても小さなものに過ぎない。これを2年後、5年後に分厚いものにしていくだけの努力が要求されているのだと思いたい。

最後になるが、永く博物館で運営の労をとられた重松和男先生が2003年3月をもって定年退職をされた。重松先生は当館コレクションの目玉ともいえる昭和の生活資料の収集を開始され、当館の特色を確立するのに大変な足跡をのこされた。

重松先生の長年のご苦勞に感謝すると同時に、その意思を受け継ぐべく、われわれ後輩が努力しなければならないことを確認した次第である。

2005年3月
南山大学人類学博物館

2. 1 年の活動を振り返って（総括）

2003 年度は、長年当館の運営・活動の中心となり従事された重松和男助教授が 2004 年 3 月末日をもって退職されたため、節目となる年であった。重松助教授は、長年にわたって、主に東海地方で使用されてきた生活道具を収集され、当館紀要において家電製品というカテゴリーで誌上企画展を企画することが可能となった。紀要の内容については、後で述べたい。

運営および活動については、運営、資料に関するバックデータ等の引き継ぎを中心とし、これまで継続していた資料整理を一旦中断した。2002（平成 14）年度から「総合的な学習の時間」の本格導入にともない、当館ではその一環として、小・中・高の児童・生徒の見学に対応した。また、生涯学習が重視されるようになって久しいが、当館においては初めて、名古屋市生涯学習センターと連携し、同センター主催の講座「温故知新」（全 5 回）の 1 回を担当した。

刊行物については、紀要第 22 号を刊行した。従来は本学調査による東海地方の遺跡報告、本学所蔵の同地方の遺跡資料に関する再検討、当館所蔵の関東地方の遺跡資料の報告（写真図録、縄文土器の拓影掲載など）、寄贈資料の生活道具（一部）の目録を中心とした内容であったが、今回は、展示資料を主とした所蔵資料を学内外に周知するために、誌面上の企画展を試みた。その内容については、昭和期に生産・販売された当館所蔵の家電製品のうち、三種の神器（白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機）をはじめとした生活に密着した資料を当時の新聞広告とあわせて紹介したものと、2000 年度に上智大学から移管された同大学西北タイ歴史・文化調査団収集によるヤオ族の資料と調査時（1960 年代後半～70 年代前半）に撮影された 8mm フィルムの映像によってヤオ族の暮らしを紹介したものであった。

その他に、紀要の編集および今後の展示の参考にするために、関連した特別展、企業博物館へ調査出張をした。この調査出張は当館にとって何年か振りのことであった。

今後も社会に開かれた大学博物館を目指し、生涯学習の運営機関、小・中・高等学校との連携を図っていきたい。

¹ 平成 5 年、国立大学協会が「国立大学と生涯学習」という報告書をまとめた。その内容は、大学が自らを社会にひらかれたものにするために、生涯学習をその改革の核となるように謳ったものである。

3. 教育・普及活動

(1) 名古屋市中生涯学習センター主催講座「温故知新」

実施日：2004年3月4日（木）

受講者数：22名

(写真) 講座の様相



大塚達朗本学人文学部教授が、当館展示資料の解説および講義を行なった。主に考古資料の土器を示しながら、考古博物館において土器の鑑賞をする際のポイントを説明した。

(2) 「総合的な学習」の対応（名古屋市立川名中学校2年生1名）

実施日：2004年1月15日（木）

「総合的な学習」の一環で、生徒各自の関心事について情報収集、調査をするために来館された。展示室の温度調整など展示の維持管理に関する質問を受けた。

4. 調査・研究活動

(1) 調査出張

岐阜県立博物館

実施日：2003年7月23日（水）

2003年度の紀要に当館で展示中の家電製品を掲載するために、その資料調査として「昭和、くらしの歩み～30年代を中心に」展を見学した。

SANYO MUSEUM、松下電器歴史館、松下電器技術館

実施日：2003年8月4日（月）

と同じく、上記3館を見学した。SANYO MUSEUMでは企画展「昭和30年代のくらしと三種の神器」展を見学し、松下電器歴史館では子ども向けの解説「キッズツアー」を見学させていただく機会を得た。

(次頁へ続く)

(2) 研究者招聘

弥生土器の展示および研究に関する諸指導を受けるため、明治大学博物館黒沢浩氏を招聘した。

実施日：2003年12月15日(月)～16日(火)

5. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載

(1) 資料貸出

下記の団体に対し、資料の貸出を行なった。

貸出先	資料名・点数	貸出し期間	目的
東浦町教育委員会 (東浦町郷土資料館)	入海貝塚出土資料 92 点他、 図面	4 月 15 日～ 5 月 27 日	企画展「国史跡指定 50 年記念 入海貝塚展」
滋賀県立 安土城考古博物館	大須二子山古墳資料 22 点、 断夫山古墳出土資料 (円筒埴輪) 1 点	4 月 21 日～ 6 月 13 日	春季特別展「日継知ら ず可き王無し - 継体 大王の出現 - 」
土岐市美濃陶磁歴史館	縄文土器 15 点、 花輪台貝塚出土資料(土偶) 1 点	6 月 30 日～ 9 月 3 日	企画展「縄文と渦巻文 様の世界 縄文土器 の魅力」
可児郷土歴史館	大須二子山古墳出土資料 8 点	10 月 1 日～ 12 月 15 日	特別展「ファッション の考古学～東海版か ら」

(2) 撮影・他機関刊行物への掲載

機関名	資料名・点数	刊行物名	備考
東浦町教育委員会	入海貝塚出土資料	『東浦町誌 資料3 原始・古代・中世』	
東海大学大学院 金永知寿氏	マリンガー・コレクション 石器実測図	東海大学考古学研究室 同人誌	
愛知県総務部総務課 県史編さん室	大須二子山古墳出土資料 5 点	『愛知県史』	当館にて 写真撮影
第一学習社	堀之内貝塚出土資料 1 点	『日本史図表』	
小学館	ゴホウラ製腕輪、 イモガイ製腕輪	『考古資料大観』	

6. 資料修復

該当資料なし。

7. 当館紹介刊行物等一覧

以下の刊行物等に当館が掲載された。

機関名	内容	刊行物等名
(株) K&B パブリッシャーズ	開館時間等紹介	『名古屋ベストガイド』
日刊工業新聞社名古屋支社	開館時間等紹介	『地下鉄ガイド』
可児市企画部市政情報課 広報広聴係	可児市出土石棺紹介	可児市広報番組 「いきいきマイタウン」
(有) エヌツー	開館時間等紹介	JTB 出版 『'04 名古屋・東海 おもしろ遊び場ガイド』
名古屋市市民経済局 地域振興部区政課	開館時間等紹介	転入者向け生活情報誌 『ようこそ名古屋へ』
(株) 美術出版社	開館時間等紹介	『全国美術館ガイド』 (「BT/美術手帳」2004年3月号)
(株) プレーンプランニング	開館時間等紹介	名古屋市交通局発行 『地下鉄4号線 新駅周辺 MAP』
(財) 日本博物館協会	開館時間等紹介	『全国博物館総覧』

8. 刊行物一覧

(1) 2003 年度刊行物

南山大学人類学博物館紀要第 22 号

『展示資料目録 - 家電製品と少数民族資料 - 』

(次頁へ続く)

(2) 過去の刊行物一覧

人類学博物館紀要

号	タイトル	発行	頁数
1	高蔵貝塚	1979(S.54)	33
2	瑞穂遺跡	1980(S.55)	49
3	塩屋金清神社遺跡	1981(S.56)	68
4	正家廃寺	1982(S.57)	108
5	正家積石塚群	1983(S.58)	57
6	西坂旧石器遺跡	1984(S.59)	138
7	高蔵貝塚	1985(S.60)	46
8	能田旭古墳	1986(S.61)	96
9	平田古墳群	1987(S.62)	496
10	高蔵貝塚	1988(S.63)	261
11	能田旭古墳	1989(H.1)	84
12	能田旭古墳	1990(H.2)	70
13	清水遺跡	1991(H.3)	72
14	入海貝塚の入海式土器	1994(H.6)	64
15	根古谷貝塚の土器	1996(H.8)	104
16	中沢貝塚の土器	1997(H.9)	103
17	木之内明神貝塚の土器	1998(H.10)	74
18	向油田貝塚の土器	1999(H.11)	203
19	展示品目録 1 縄文時代編 1	2000(H.12)	50
20	二ツ木貝塚の土器	2002(H.14)	211
21	寄贈資料目録 1	2003(H.15)	131
22	展示資料図録	2004(H.16)	48

(次頁へ続く)

人類学博物館館報

号	タイトル	発行
1	博物館概要	1980.12
2	ニューギニアの仮面	1981.04
3	第1回講演会 要旨(中国)	1981.06
4	インドネシアの絣	1981.10
5	第2回講演会 要旨(ドゴン)	1981.11
6	尾張地方の弥生式土器	1982.03
7	尾張の古式土師器	1982.03
8	第3回講演会 要旨(スリランカ)	1982.05
9	城山1号墳発掘調査	1982.12
10	第4回講演会 要旨(ネパールの自然と文化)	1983.01
11	南山大学所蔵の馬具	1983.03
12	縄文時代の土偶	1983.04
13	パキスタンの博物館	1984.01
14	博物館概要(改訂版)	1984.07
15	第7回講演会 要旨(中国少数民族)	1984.07
16	第6回講演会 要旨(ビルマ)	1984.10
17	ヨーロッパの博物館	1984.11
18	柚木コレクション展	1984.11
19	藤村家民俗資料	1986.03
20	高蔵(夜寒)遺跡調査概報	1986.05
21	第8回講演会 要旨(フィリピン・イスラム)	1986.07
22	機上げまでの記録	1987.05
23	朝鮮半島出土陶質土器について	1987.07
24	インドの衣装について	1988.02
25	藁草履をつくる	1989.03
26	古代エジプトの神殿	1989.10
27	二ツ木向台遺跡の縄文土器	1992.05
28	古墳外出土の埴輪	1992.07
29	水族館めぐり	1993.01
30	タイの博物館	1993.02
31	屋根の上の鐘馗様	1994.04
32	韓国の博物館	
33	注連縄をつくる	1997.07
34	背蓑・鳶蓑の作り方	1998.03
35	回転マイギリ式による火起こしの仕方	2000.09

9. 新着資料紹介

受贈資料

資料名 アルミ製弁当箱
寄贈者名 岡地 稔（外国語学部教授）

10. 新着図書紹介

(1) 購入図書

2003年度は以下の図書を購入した。

書名	著編者名	出版社名
日本古代木簡集成	木簡学会	東京大学出版会
日本古代木簡選	木簡学会	岩波書店
日本第四紀地図	日本第四紀学会	東京大学出版会
弥生変革期の考古学	藤尾慎一郎	同成社
縄文社会の考古学	林謙作	同成社
縄紋土器研究の新展開	大塚達朗	同成社
日本の旧石器文化	小田静夫	同成社
旧石器社会の構造変動	安斎正人	同成社
中国北部の旧石器文化	加藤真二	同成社
ヨーロッパの旧石器社会	C. ギャンブル	同成社
東アジアと日本の考古学 墓制	後藤直, 茂木雅博	同成社
東アジアと日本の考古学 墓制	後藤直, 茂木雅博	同成社
東アジアと日本の考古学 交流と交易	後藤直, 茂木雅博	同成社
東アジアと日本の考古学 生業	後藤直, 茂木雅博	同成社
東アジアと日本の考古学 集落と都市	後藤直, 茂木雅博	同成社
スミソニアンは何を展示してきたか	A. ヘンダーソン, A.L. ケブラー	玉川大学出版会
フランスの博物館と図書館	M. ブラン= モンマイユール他	玉川大学出版会
博物館をみせる 人々のための展示プランニング	K. マックリー	玉川大学出版会
暮らしのなかの技術と芸能 中国江西省と韓国鬱陵島 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第19集	下中直人	平凡社
関西ミュージアムマップ	内藤龍	創元社
Illustratar 実践技&ウラ技大全	C&R 研究所	ナツメ社
録音のすべて	目黒三策	音楽之友社
オーディオの一世紀	山川光正	誠文堂新光社
オーディオ・エンサイクロペディア	土屋赫	音楽之友社
BRUCKENBAU 博物館で学ぶ橋の文化と技術	ディルク・ピューラー	鹿島印刷会

(2) 寄贈図書一覧

2003年度の受贈図書一覧は省略する。

11. 団体、取材・資料調査のための来館者一覧

以下の団体および個人が、資料調査等で来館された。

来館者名	資料名・点数	実施日
安城市教育委員会生涯学習課 岡安雅彦氏	高蔵遺跡出土資料資料	9月16日
北上市立埋蔵文化財センター 稲野裕介氏	青森県出土 岩偶 1点	10月23日
京都大学文学部考古学研究室 大賀克彦氏	白山藪古墳出土玉類 350点	11月13日
名古屋市見晴台考古資料館 服部哲也氏	大須二子山古墳出土資料、 白山藪古墳出土資料他	11月28日
名古屋市見晴台考古資料館 村木 誠氏	瑞穂遺跡出土資料	1月23日
八千代市教育委員会 宮沢久史氏	花輪台貝塚出土資料 (『南山考古』第2号掲載分)	2004年3月26日
愛知淑徳大学 図書館情報学科菅野研究室	HP作成のため、質問および見学	10月7日

12. 開館日数・入館者数

(1) 開館日数・入館者数(大学講義受講生、個人を除く)

総入館者数	学校団体数	学校団体人数	一般団体数	一般団体人数	開館日数
2,626	26	1,027	7	259	211

(次頁へ続く)

(2) 団体別入館者数内訳 (学内授業以外)

大学見学

日付	団体名	人数	担当課室/対応者名
4月25日	岐阜県立可児高等学校	200	入試課
5月9日	愛知県立岩倉総合高等学校	40	入試課
5月13日	私立中京高等学校	150	入試課
5月14日	私立美濃加茂高等学校	70	入試課
5月28日	愛知県立津島北高等学校	40	入試課
7月2日	岐阜県立関高等学校	197	入試課
7月28日	三重県立四日市西高等学校	37	入試課
9月5日	三重県立津西高等学校	120	入試課
10月1日	愛知県立豊明高等学校 PTA	32	入試課
10月15日	滋賀県立水口東高等学校	30	入試課
10月17日	愛知県立刈谷高等学校 PTA	30	入試課
10月21日	岐阜県立各務原高等学校 PTA	25	入試課
10月23日	愛知県立一宮南高等学校	32	入試課
11月5日	私立南山高等学校女子部育友会	63	入試課
11月6日	岩倉市立岩倉中学校	51	入試課
11月7日	私立帝京大学可児高等学校	125	入試課
11月11日	私立南山高等学校男子部育友会	100	入試課

入試課以外

4月7日	愛知淑徳大学	4	
6月10日	名古屋市立宝小学校4年	4	
7月1日	各務原市市民サークル	不明	重松和男人文学部助教授
7月2日	名古屋市立清水小学校	20	
7月16日	グループ名称不明	25	
10月16日	滋賀県立虎姫高等学校	14	
10月16日	稲沢市立千代田中学校	8	教務課(総合的学習)
10月23日	尾西市立尾西第三中学校	6	
10月24日	名古屋市立滝川小学校	15	
10月29日	名古屋市立野並小学校	7	
11月6日	名古屋市立大江中学校	7	
11月13日	東海市立横須賀中学校		
12月5日	本学留学生別科	35	オリエンテーションで利用
12月22日	名古屋大学	22	大塚達朗人文学部教授
1月29日	大府市立大府中学校	4	

大学行事

7月19日	オープンキャンパス	276	
9月27日	父母のつどい	37	

13. 事務室日誌抄

4月

- 1日 入学式
特別嘱託職員 後藤真里着任
新入生人類学博物館招待日（～4月9日）
- 7日 愛知淑徳大学 4名見学
- 15日 東浦町教育委員会資料貸出（～5月27日）
- 21日 滋賀県立安土城考古博物館資料貸出（～6月13日）
- 22日 館長と談話（今後の方針など）
- 25日 岐阜県立可児高等学校 200名来館（入試課）

5月

- 8日 アルミ製弁当箱受贈（本学教員より）
- 9日 愛知県立稲沢高等学校 40名見学（入試課）
臨時職員 梅田悠子着任
- 13日 私立中京高等学校 150名見学（入試課）
- 14日 私立美濃加茂高等学校 70名見学
- 21日 実務者会議（14:00～17:00）
- 22日 上智大学移管資料（8mmフィルム）のデータを東京大学にメールにて送信
- 27日 東浦町教育委員会資料返却
- 28日 愛知県立津島北高等学校 40名見学（入試課）
- 30日 日本私立学校振興・共済事業団平成15年度補助金実績見直し調書提出
（総務課）

6月

- 2日 土岐市美濃陶磁歴史館職員来館（資料貸出事前調査）
平成14年度月別来館者数統計
- 4日 東海大学金永知寿氏へ掲載許可書送付
- 6日 臨時職員 梅田悠子退職
- 10日 名古屋市立宝小学校 4名グループ学習のため来館
- 13日 滋賀県立安土城考古博物館資料返却
- 25日 実務担当者会議（紀要について）
- 30日 土岐市美濃陶磁歴史館資料調査および資料貸出（～9月3日）

7月

- 1日 各務原市市民サークル見学
八女市立川崎小学校へ火おこし掲載の館報を送付

- 2日 名古屋市立清水小学校 6年生 20名見学
岐阜県立関高等学校 188名/教員 9名見学
- 4日 取手市埋蔵文化財センターの埋蔵文化財アンケート回答を返信
- 14日 稲沢市荻須記念美術館へアンケート返信
- 15日 (学内) システムテスト説明会出席 土屋
- 16日 グループ見学 25名(団体ではない)
- 17日 臨時職員(短期:アルバイト)雇用申請書提出
- 19日 オープンキャンパス(大学行事)のため開館。計 276名見学
第3展示室ニューギニア資料1点(槍)を損傷のため撤収
- 22日 (学内)新財務システムテスト
(株)デアゴスティーニ・ジャパン発行『New PC Success』(当館掲載)
受領
出張申請書提出(岐阜県立博物館) 土屋・後藤
- 23日 調査出張:岐阜県立博物館 土屋・後藤
- 24日 岐阜県立博物館へのお出張報告書提出 土屋・後藤
- 28日 三重県立四日市西高等学校 37名見学
- 29日 日本経済新聞社松岡氏来館(ソリュートレアン期の石器調査)
- 31日 臨時職員(短期:アルバイト)就業報告書および雇用申請書提出
出張申請書提出(SANYO MUSEUM、松下電器歴史館、松下電器技術館)
土屋・後藤
外国語学部ドイツ学科合同研究室からドイツ語タイプライター寄贈の連絡

8月: 休館

- 1日 事務室閉室(～8月21日)
- 5日 調査出張: SANYO MUSEUM、松下電器歴史館、松下電器技術館
土屋・後藤
- 25日 日本私立学校振興・共済事業団平成16年度私立大学等経常費補助金
特別対象事業に係る調査票提出(総務課)
- 29日 火災報知機点検(施設課)

9月

- 3日 非常ベル点検(施設課)
愛知県総務部総務課県史編さん室へ撮影許可書送付
- 5日 愛知県立津島西高等学校 120名見学(入試課)
- 16日 安城市教育委員会岡安雅彦氏資料調査・写真撮影のため来館
- 18日 第一学習社に掲載予定資料(堀之内貝塚出土資料)の画像送信
- 19日 愛知県総務部総務課県史編さん室資料撮影
- 19日 本学留学生別科 17名来館
- 24日 第一学習社へ掲載許可書送付
- 26日 次年度情報機器購入申請書準備
- 27日 父母の集い 計 37名(午前6名/午後31名)来館
- 29日 紀要編集会議開催

10月

- 2日 愛知県藤岡町よりニューギニア資料について問い合わせ。その対応を早川正一人文学部教授（当時の調査団員）に依頼
- 3日 次年度情報機器購入申請書提出
- 6日 （本学）75周年記念誌編纂小委員会委員来館
瓦（第一展示室）のキャプション更新
- 7日 愛知淑徳大学図書館情報学科（菅野研究室）4名 HP 作成のため来館
上智大学移管資料（メオ族女性用衣装、煙管1点）展示復旧
- 8日 （本学）75周年記念誌編纂小委員会委員来館
紀要編集会議開催
- 9日 北上市立埋蔵文化財センター稲野祐介氏へ掲載許可書発送
- 10日 可児郷土歴史館へ資料貸出
- 15日 滋賀県立水口東高等学校2年生27名/教員2名来館（入試課）
第2展示室の旧配管水漏れ。上智大学移管資料（メオ族女性用衣装）を撤収
- 16日 滋賀県立虎姫高等学校3年生14名/教員2名来館（入試課）
稲沢市立千代田中学校8名来館（本学『総合学習』担当：教務課・国際教育センター）
- 17日 愛知県立刈谷高等学校PTA約30名来館（入試課）
名古屋市生涯学習センターへ見学および解説（3月4日実施予定）承諾書送付
『雑誌新聞総かたろぐ』へ回答送付
- 22日 岐阜県立各務原高等学校PTA40名（入試課）
- 23日 愛知県立一宮南高等学校2年生32名/教員1名（入試課）
尾西市立尾西第三中学校2年生6名グループ見学
北上市立埋蔵文化財センター稲野祐介氏来館（青森県出土岩偶の資料調査）
名古屋市立滝川小学校5年生9名来館
ブレーン・プランニングへ掲載許可送付
予算執行状況報告および今後の予算使途について実務担当教員と打ち合わせ（E-メール利用）
- 27日 観光コンベンションビューローへ掲載許可書送付
（本学）75周年記念誌編纂小委員会委員来館

11月

- 4日 名古屋市交通局発行『地下鉄4号線 新駅周辺MAP』の原稿訂正
- 5日 （本学）75周年記念誌編纂小委員会委員来館
- 6日 補正予算申請
私立帝京大学可児高等学校125名来館（入試課）
- 10日 愛知淑徳大学図書館情報学科（菅野研究室）のHP原稿校正
- 11日 新入生行事日程（案）校正（教務課）
- 12日 紀要編集会議開催
- 13日 NHKテレビ設置状況のアンケート回答（総務課担当）

東海市立横須賀中学校 2 年生見学

- 19 日 愛知淑徳大学図書館情報学科（菅野研究室）へ校正済みの HP 原稿送付
名古屋市発行『ようこそ名古屋へ 暮らしの便利帳』校正
第 2 展示室旧配管の水漏れ箇所の確認（施設課）
2004 年度臨時職員雇用時間申請について打ち合わせ
- 23 日 京都大学文学部考古学研究室大賀克彦氏来館（白山藪古墳出土資料の資料調査）
- 25 日 総務課アンケート提出
- 27 日 第 2 展示室旧配管修理（施設課）
- 28 日 2004 年度臨時職員雇用時間申請
名古屋市交通局広報宣伝課 3 名来館
「全国美術館アンケート」（美術出版社）回答・返送
名古屋市見晴台考古資料館服部哲也氏来館（大須二子山古墳出土資料、白山藪古墳出土資料の資料調査）

12 月

- 1 日 （本学）75 周年記念誌編纂小委員会委員来館
- 2 日 紀要原稿下書き締め切り
物品等調達協議申請書（紀要印刷費）作成
予算会議開催
高校生向け配布資料（入試課）原稿校正
- 4 日 物品等調達協議申請書（紀要印刷費）提出
専門家招聘（明治大学博物館黒沢浩氏）について起案提出
- 8 日 （株）エヌツーより『'04 名古屋・東海おもしろ遊び場ガイド』への掲載について問い合わせ
- 10 日 2004 年度予算会議開催および 2004 年度予算申請
- 12 日 高校生向け配布資料用写真撮影（入試課）
学術情報データベースに関するアンケート回答
名古屋市中生涯学習センター講座担当者 2 名来館
- 15 日 明治大学博物館黒沢浩氏来館（～12 月 16 日）
可児郷土資料館資料返却
- 16 日 紀要編集打合せ（印刷会社担当者来館）
- 17 日 人文学部伊藤秋男教授展示室にて講義実施
- 18 日 次年度特別嘱託職員雇用申請
- 20 日 冬季休暇のため閉館および事務室閉室（～2005 年 1 月 6 日）
- 22 日 名古屋大学生 22 名/教員 1 名来館（大塚達郎人文学部教授対応）

1 月

- 7 日 （本学）75 周年記念誌編纂小委員会委員来館
- 8 日 紀要原稿校了
- 13 日 『学生生活』の原稿返却（学生課厚生係）
- 14 日 朝日新聞大学ランキング編集部に平成 14 年度の入館者数を連絡
- 15 日 名古屋市立川名中学校 2 年生 1 名来館（総合的な学習の時間の一環）

- 16日 (株) K&B パブリッシャーズへ当館紹介記事の掲載許可書送付
(株) 小学館へ資料掲載許可書(ゴホウラ製腕輪・イモガイ製腕輪)送付
- 19日 (本学) 75周年記念誌編纂小委員会委員来館
- 20日 名古屋市見晴台考古資料館村木誠氏来館(瑞穂遺跡出土資料調査)
- 28日 日刊工業新聞社掲載用写真撮影
三晃社愛知県のホームページ用写真撮影(掲載予定日不明)
- 29日 大府市立大府中学校 4名来館

2月

- 1日 休館(～29日)
- 3日 紀要納品
- 4日 日刊工業新聞社へ掲載予定原稿の確認および掲載許可書送付(Eメール利用)
- 5日 愛知淑徳大学図書館情報学科菅野ゼミ生よりWEBサイト完成連絡
紀要正誤表作成
- 19日 当館紹介文(学長室)の校正
- 20日 男子トイレ修理
- 27日 2005年4月1日付採用予定特別嘱託職員雇用申請書提出

3月

- 2日 2005年3月(17日付)採用予定臨時職員雇用申請書提出
- 3日 紀要発送
- 4日 名古屋市中生涯学習センター講座実施受講者22名
- 5日 次年度臨時職員勤務予定表提出
- 12日 日刊工業新聞社杉本氏来館(1月28日写真撮影の情報誌を受領)
- 16日 可児市出土資料(石棺)テレビ撮影(可児市企画部市政情報課広報広聴係)
男子トイレ天井の水漏れ修理
- 17日 臨時職員 須山成彦着任
- 19日 新財務システムテスト実施
本学人文学部人類文化学科伊藤秋男教授来館(愛知県史原稿執筆)
- 26日 八千代市教育委員会宮沢久史氏来館(花輪台貝塚資料調査)
- 30日 重松和男本学人文学部人類文化学科助教授に所蔵資料の聞き取り調査
- 31日 特別嘱託職員 土屋千春退職

(次頁へ続く)

14. 施設整備

- (1) 第2展示室旧配管水漏れ修理
実施日：2003年11月27日(木)

- (2) 男子トイレ修理
実施日：2004年2月20日(金)

- (3) 男子トイレ天井修理
実施日：2004年3月16日(火)

15. 2003年度予算報告

削除

16. 組織

職員

館長 坂井信三

特別嘱託職員 土屋千春
後藤真里

臨時職員 久慈大介

須山成彦(2004年3月17日着任)

梅田悠子(5月9日着任、6月6日退職)

平成 17 年 3 月 18 日 印刷

平成 17 年 3 月 25 日 発行

南山大学人類学博物館年報 2003 年度

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

052 (832) 3111 内線 445

印刷 有限会社 オノウエ企画印刷

470-0154 愛知郡東郷町白鳥 1 丁目 3-1

0561 (38) 5619

E-mail info@onoue.com